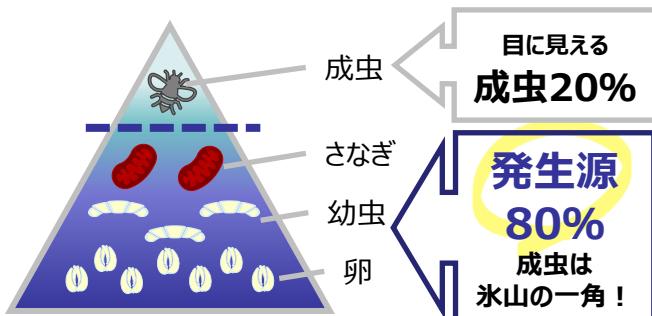


春先に向けたサシバエ対策で牛を病気・ストレスから守りましょう！

さて？冬季のサシバエ対策？春・秋よりサシバエ見ないけど…

成虫がいる=幼虫はもっと潜んでいる



温度とサシバエが卵から成虫になるまでの発育日数の関係



冬季は気温が低いので、発育速度が遅い！
幼虫対策をすれば、殺虫剤を撒く回数も減少！

九州の冬季サシバエ対策は、寒いうちから！

スタートが遅れると、ハエの数は爆発的に増加します…

1. 幼虫対策は、堆肥等の管理とIGR剤の散布！



堆肥の切り返しは隅々まで！

牛舎隅など牛が踏まない・糞の取り残しがある場所、カーフペンなど子牛のいる牛床にIGR剤を散布！

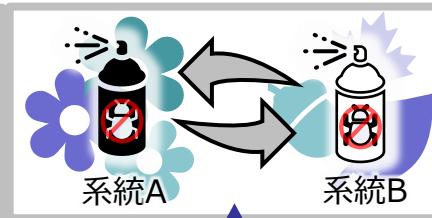
つなぎ牛舎はバーンクリーナーへ散布！

2. 成虫対策は、防虫ネットや殺虫剤ローテーションで！



地面や床から2mは防虫ネットで覆るようにしましょう！隙間や穴がないか確認を！

殺虫剤はサシバエが飛ぶより上を狙って噴霧！



殺虫剤はローテーションを！噴霧量が十分か確認！

3. 対策は地域ぐるみで！関係業者も一緒に！



サシバエ対策、ここをチェック！

1

堆肥・敷料・残餌はしっかり管理できている！

- ・切り返し等により堆肥発酵時の中心温度が65度になることを確認
- ・牛床は清潔に保たれ、汚れた敷料や残餌は片付いている

いいえ

すばらしい！
はい

IGR剤を撒き、幼虫対策をしている！

- ・バーンスクレーパーが通る前にバーンクリーナーに散布
- ・牛の踏まない所を中心に散布（特に牛舎隅など）

いいえ

その調子！
はい

サシバエ幼虫は、堆肥等の管理 + IGR剤で限りなく減らそう

サシバエの成虫1匹は、生涯600個もの卵を産む。冬の成虫1匹は来シーズンの1万匹に相当すると言われるほど、冬季対策が重要。サシバエの活動が低下している冬季だからこそ、地域ぐるみで幼虫対策をしましょう！



2

牛舎内でハエ成虫をほぼ見ない

いいえ

みんなのお手本！
はい

サシバエ成虫を、牛舎内で見かけたら、対策徹底！

サシバエは農場内でも発生するし、他所からも飛んだり運ばれたりしてやってくる。地域ぐるみでの対策が重要。サシバエの持ち出しや持ち込みがないよう農場出入り業者にも車内の殺虫をお願いしましょう。



サシバエ成虫対策 3つのポイント

1. 殺虫剤はローテーション

同じ殺虫剤を連用していると、生き延びたサシバエが耐性を持つことがある。

殺虫剤が効きにくくなる前に、系統が異なる殺虫剤とローテーションで回していく。

十分な濃度・噴霧量で散布しているかも要チェック。

2. 防虫ネットの設置

地面から2mの高さまで床から天井に向けて設置。穴が開いてないか定期的にチェック。

3. 下草刈りや防草シートの設置

サシバエが日中休息する牛舎周辺の下草を刈ろう。防草シート設置も効果的。